

ICAオスロ総会・ CICOPA世界会議

グローバル資本主義の破局的状況から「人間の世紀」へ
——「国際協同組合運動第二の波」を告げたICAオスロ総会——

菅野正純（日本労協連）

既報のように、ICA(国際協同組合同盟)総会が、9月3、4日に、ノルウェーのオスロで開かれました。「民主主義・社会・経済の発展のための協同組合」をテーマに開かれたこの総会は、グローバル資本主義がもたらす破局的状況に全面的に立ち向かい、この世紀を「人間の世紀」とする、「国際協同組合運動第二の波」が始まっていることを高らかに宣言し、「ILO協同組合勧告の実施」「貧困に対するグローバルな同盟」を中心とした戦略を確認しました。

総会に寄せられたローマ法王、アナン国連事務総長のメッセージは、協同組合の役割への承認と期待がどれほど大きくなっているかを如実に示しました。それは、「世界規模の連帯文化の普及」「個人の尊厳と創造性の尊重」「共通善と人間発達」への貢献(法王)という深さを帯びています。

ICAバルベリーニ会長と、ILOソマビア事務局長は、「中世にも見られなかった貧困」「人間の自由と尊厳の劇的な剥奪」をもたらしたグローバル資本主義の現実を、それぞ

れ、「責任の倫理から切り離された経済発展」「貪欲と権力が支配する経済」と鋭く規定し、「社会的必要に応え、コミュニティ精神によって自らを組織する」協同組合運動がめざす方向を「自由としての発展」(アマルティア・セン)に据えました。

「協同共和国」を目指すブラジル・ルラ大統領のもとで自らも農業大臣に就任した、ロドリゲスICA前会長は、今日の政府が担うべき公共政策が、「就労保障、食の安全、環境保護、万人にとっての正義、平等な機会」という、協同組合運動の追求課題そのものになっており、民主的政府と協同組合の「完全なパートナーシップ」が可能な時代に入った、と主張。ロッチデール開拓者組合が世界に伝播していった国際協同組合運動「第一の波」に匹敵し、さらにそれを上回る「第二の波」が始まっていることを高らかに謳い挙げました。

ICAの当面する第一の課題は、「グローバル化の時代において、協同組合の役割を現代的に再確認した」「ILO協同組合振興勧告」をILOと共に「明確な政策に転換」し、とり

わけ「協同組合のアイデンティティと基本的価値を堅持しながら、グローバル市場で競争するために必要な手段を提供する」真の意味で平等な法制を確立することです。

ICAの第二の課題は、「極貧のうちに暮らす人びとの割合を2015年までに半減し」「児童の死亡率を3分の2まで減らし、すべての子どもに初等教育を普及する」などの、国連「ミレニアム目標」の達成に貢献することです。ヨンソン・ノルウェー国際開発大臣は、「人びとを主人公に高め」「事業体を自らつくりだす」協同組合こそが、貧困克服の中心的担い手であることを、バングラデシュの女性協同組合の実践事例を含めて、熱く訴えました。彼女が引用した「人びとは弱くないのだ」「彼らは変革に貢献できるのだ」というアウサン・スーチー女史の言葉は、グローバル資本主義に立ち向かう、すべての協同組合人の精神でもあるのではないのでしょうか。

協同総合研究所新年会

日時 2004年1月10日(土)
16:00 ~

場所 日本労協連会議室
東京都豊島区南大塚2-33-10
TEL03-5978-2190

お問い合わせ
協同総研まで

